

教育的価値	具 体 の 項 目	教育課程
2 【かかわる】	⑨ 【仲間や地域とのつながり】	教科(社会)
3 【そなえる】	⑩ 【ボランティア】	
	⑳ 【学校・家庭・地域での日頃の備え】	

【本校の復興教育の概要について】

1 平成23年3月11日の東日本大震災・大津波の体験を生かす。

2 **復興教育**の視点を「学習計画」へ位置づけ、ねらいの明確化・指導過程の工夫を図る。

[各教科で防災学習の指導]・・・「津波災害」への関心の継続

[各教科のねらいの達成]・・・各教科本来のねらいの達成

[生きる力の基礎を培う]・・・日常の授業で学び方を身に付けさせる



3 本校の合い言葉

主体的に考え、行動できる子どもを目指す→ **自分から**

4 **授業レベルの実践** 各教科の学習で、復興教育の視点を取り入れ、授業の充実・深化を図る

重点教科 **低学年「体育科」**～心とからだを一体化した学び → **意欲づくり**

中学年「社会科」～ふるさとの理解と愛情を育む学び～ → **仲間づくり**

高学年「国語科」～伝え合う力を高めていく学び～ → **自分づくり**

【単元名・題材】

4年社会科 安全な暮らしとまちづくり「火事を防ぎ 地震にそなえる」

消防団

【対象】

4年生

【実践の概要】

消防署・学校の消防施設・地域の消防施設の学習をしたあと、「消防団」を取り上げ、消防団員のお話を通して、消防署とのちがいや、消防団員として活動する人々の思いや願いについて気付かせていく。

指導案の冒頭、授業者本人が、3.11を通して考えたこと、授業実践するにあたっての思いを書く。

震災の時、津波が迫っていることをいち早く大きな声で知らせに歩いていたのは地域の消防団の方だった。消防団の方々はずでに水があがってきた学校の周りの道路を水につかりながら必死で回り、住民に避難を呼びかけ、本校職員の自動車の移動までも呼びかけてくださった。その後も真っ暗な街の中で地域住民のために力を尽くした。

本校のすぐ近くには宮古消防署があり、すぐ脇には第三分団がある。避難所となった本校は消防署の方や分団の方と協力しながら震災後の対応にあたることも多く、地域住民と直接関わりながら、地域のために力を尽くす姿を目の当たりすることができた。児童にとって、消防署や消防団が火事の際に消火活動や救助活動にあたることはイメージできていることと思うが、それ以外でも普段から地域の安全のために行っている活動についてはあまり知られていないと思われる。特に消防団は地域住民で構成されており、地域の方が自分たちの手で自分たちのまちを守るために努力していることに気づかせたい。消防団の活動を知ることは、自分が住んでいるまちを地域の大人たちが守ってくれていることを知ることであり、その方々の思いに触れることで自分が住む地域を大事にしていきたいという思いをもつことができると考える。

本単元では、災害からまちを守るための活動を理解することを通して、消防署だけでなく、地域住民の協力と自覚が必要であることを学ぶ。消防団の方のお話を聞く活動を取り入れることで、身近な大人たちが自分たちの暮らしを守るために努力していることに気づき、自分も地域の一員として自覚をもち、地域を守るためにできることや努力しなければならないことを実感できると考える。さらに、将来自分も積極的に地域を守る大人になるという気持ちをもたせたい。

【授業の展開】

☆消防団の方の写真を見せ、職業を考える。

この人の職業はなんでしょう。

- ・ 消防士の人 ・ 消防団の人
 (消防団＝仕事とらえているが、仕事は別にあることに気付かせる。(本当の仕事はレストラン) 女性の分団員であることにも注目させる。)



☆地域の消防施設を調べてきたことを想起し、宮古市の消防団の数や消防団員の数を知る。

宮古市内には、消防団はいくつあるでしょう。

(予想後、宮古市にある消防団の位置を示す地図をゆっくりずらしながら提示し、数の多さに注目させる。その後、消防団員の人数も予想・検証し、課題につなげる。)



課題 ほかに仕事があるのになぜ消防団で活動をしているのだろう。

☆消防署と消防団の仕事比べ、震災時の活動について話を聞く。

消防団の人たちの仕事で、いいところはどんなところですか。

- ・ 夜の見回りをする。 ・ 消火栓の雪かき
- ・ すぐ火事の現場にいける。 ・ 一つ一つの家をまわる。
 (震災時の消防団の活動の様子についてつなげる。)



☆消防団の活動する人の願いや思いについて話し合う。

お話を聞いて、いいなあとすることはありますか。

- ・ 宮古を守りたいという気持ちでがんばっていること。
- ・ 安心できる気持ちにしている。
- ・ みんなを守るという強い気持ちを感じた。
- ・ いろいろあったけど心をついにやっている。
- ・ 自分から地域の人に声をかけられていいと思った。



☆学習の感想とこれから自分にできることをまとめる。

- ・ 消防団の人たちは宮古を守りたいという気持ちでがんばっていてすごい。
- ・ 困っている人に進んで声をかけたい。
- ・ 何でも努力していきたい。
- ・ 自分のおばあちゃんも分団に入っていて、格好いいと思った。
- ・ 大きくなったら、人を守れるような人になりたい。

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の結びつきを大事にした教材開発 ・ 社会参画意識を高める内容 ・ 効果的なG Tの活用 ・ 深めるための発問 ・ 具体的事実をもとにした思考の流れ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 資料活用の考え(事実をとらえ考えるのか。考えを検証するためのものなのか。) ・ 問題解決の流れになるようなノートの書かせ方(課題→予想→たしかめ→ふりかえり) ・ 二題提示の場合の二つ目の課題の扱い方

3. 1 1のことを語り継ぎ、震災から学んだことを生かしていくために、単元のどこで位置づけるかが大切である。子どもたちは、消防団の方たちの思いに共感し、地域を守りたいという思いをもつことができる授業であった。これからも積極的に地域を生かした教材開発をしていきたい。

教育的価値	具 体 の 項 目	教育課程
1【いきる】	⑦【体の健康】	教科(体育)
2【かかわる】	⑨【仲間や地域の人々とのつながり】	
3【そなえる】	⑯【身を守り、生き抜くための技能】	

【単元名】

体育科 「スーパーマリオワールド」 (A 体づくり運動 イ 多様な動きをつくる運動遊び)

【対象】

特別支援学級

【実践の概要】

ゲームのキャラクターになりきらせ、1時間ごとに新しい用具(アイテム)と動きを取り入れるなどストーリー性をもたせた単元構成にし、運動する楽しさを実感できるようにする。

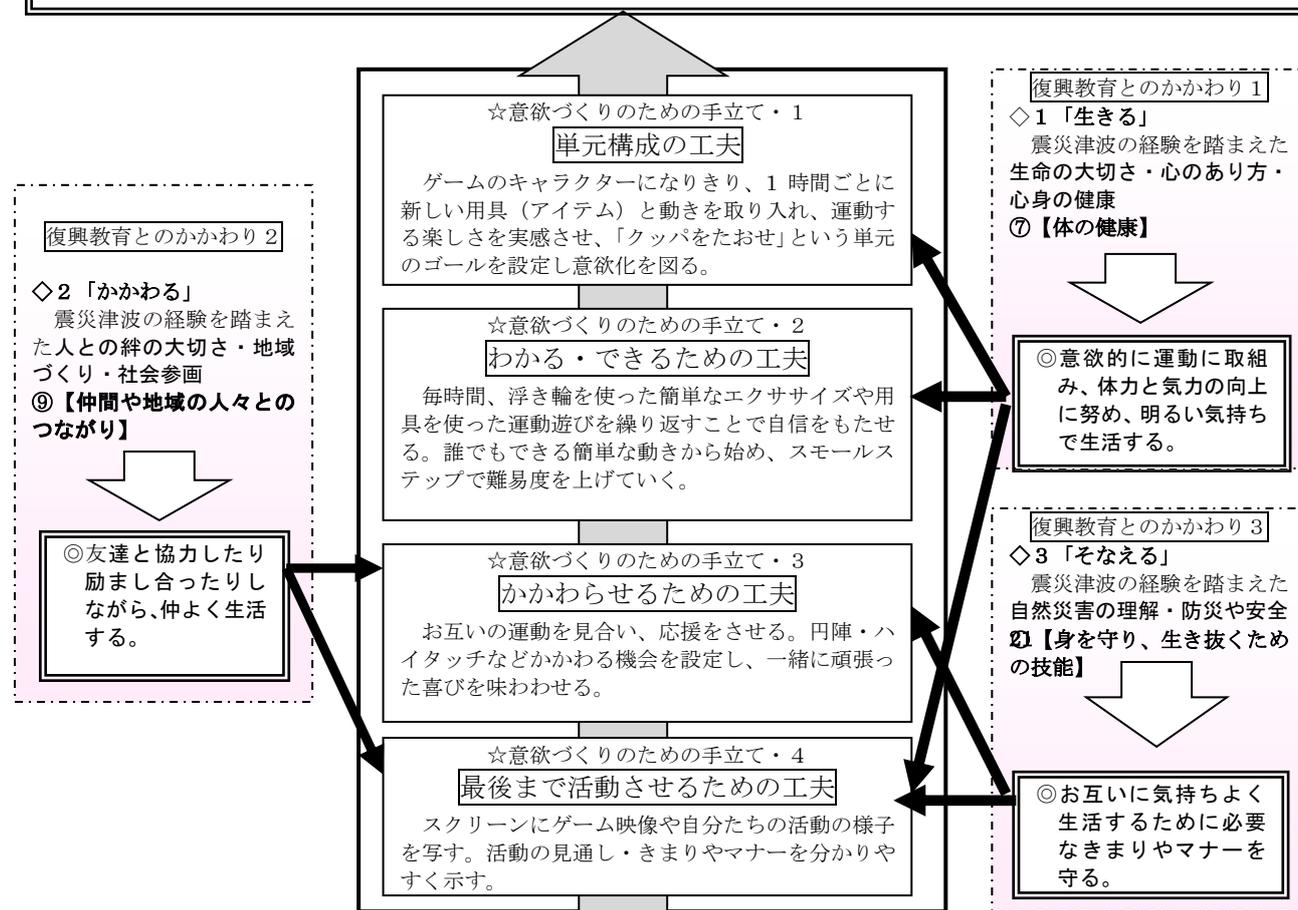
復興教育との関連を示した単元構成図

◎本校の復興に向かう合言葉＝「自分から」

《本単元で目指す子どもの姿》

【意欲づくり】

自己を肯定し、楽しく運動ができる子



児童の実態

- 教師の指示に従って活動することができる。
- 体力面・運動能力面において個人差が大きく同じ活動をするのが困難である。
- 勝ち負けにこだわったり、失敗を極端に嫌がったりする子どももあり、勝ち負けがあるゲームの際に意欲を低下させることがある。
- 運動遊びに苦手意識・好き嫌いがある子どもも多く、活動の導入に苦労することもある。

教材について

体づくり運動の「多様な動きをつくる運動(遊び)」では、体づくり運動以外の各領域において扱いにくい様々な体の基本的な動きを培う運動である。成功や失敗が分かりにくい運動が多いため、運動に苦手意識をもつ特別支援学級の児童でも意欲的に取り組むことができる。また、子どもたちに人気のあるゲームの設定を単元構成に取り入れることで、動きのイメージもしやすく、楽しく運動することにつながると考えられる。

【授業の展開】

① 準備運動の工夫

授業の導入時には、心と体の準備のために行う。準備の時間をかけずに、体温を上昇させ、更には、仲間とかかわりあいながら楽しくできることが大切である。本校では、「宮小エクササイズ」として、単元や領域ごとに主運動につながるような準備運動やセットメニューを考え、実践している。

今回は、「浮き輪エクササイズ」として、浮き輪を活用し、音楽に合わせて楽しく運動を行った。



② 準備・後片付けの重視と視覚化

復興教育を推進する上でも大切にしている点である。協力して活動する機会を増やしていくことで、助け合い・励まし合いの心が児童に育まれるようにしていきたい。そのために、学習の流れがわかりように、運度のやり方、場づくりについて、視覚化することも重要である。



今日のかつどう

- ・めあてのかくにん
- ・もののじゅんぴ
- ・クッパじょう
- ①ステップ ②ふうせん ③フラフープ
- ④ボール ⑤へいきんだい
- ・片づけ
- ・ふりかえり

ふうせん

キャッチして
はここにいれる

③ ストーリー性をもたせた連続性のある運動

最初に今までの学習を映像で振り返り、意欲をもたせる。「クッパをたおせ」は5つのステージがある。1つの場をクリアすると、次のステージをクリアするためのアイテムを手に入れることができる。制限時間があつたり、最終ステージは簡単にクリアできないようにしたり、挑戦意欲を掻き立てる設定である。

ステップエリア (走・跳)

風船エリア (捕る)

ボールエリア 的たおし(投げる)

クッパをたおせ (投げる)

クッパをたおし喜ぶ子どもたち

いよいよ最終ステージ。平均台を一人ずつ渡ると目の前にはクッパが。一人ずつでは倒れない。「みんなで一斉に投げよう。」の声があがる。みんなで平均台をわたり一斉に投げると、ついにクッパが倒れる。この時の歓声は心からの喜びであった。しかしこれで終わりではない。更なる敵が現れ、子どもたちの気持ちは更に高まる。

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none"> ・意欲づくりにつながる単元構成 ・教材の工夫 ・ICTの有効的な活用 ・自己肯定感を高められるふりかえり 	<ul style="list-style-type: none"> ・復興教育と特別支援教育との関係 ・自分から発信する力 (「体調が悪い」「わからない」「助けて」など伝えられる力を大切にする。)

個人の技能を高めるだけでなく、仲間とかかわりながら、みんなでできることが、より達成感を高める。それが、意欲づくりにつながる。体育の授業を大切にすることで、学級の子どもたちが優しくなったという先生方からの感想がある。3つの輝き(輝く汗=運動量・輝く笑顔=楽しさ・輝く歓声=肯定的なかかわり)のある体育授業が、人づくりにつながっている。